

議員票逆転！ 誕生の舞台裏～

政界展望

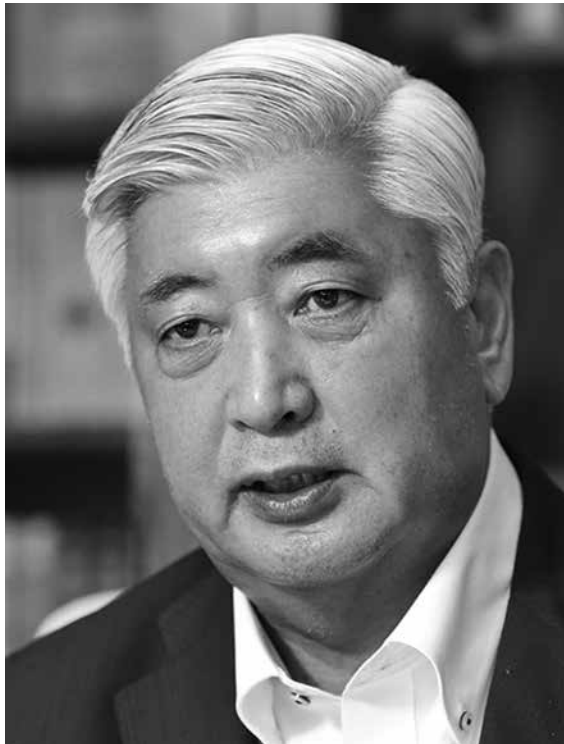


岸田政権の経済対策を継承することを明らかにした

ジャーナリスト
鈴木哲夫



決選投票で ～石破新総裁・首相



中谷元元防衛相はかすかに笑顔を見せた

野田代表に決まった ことが影響？

自民党総裁選の決選投票。9月27日。永田町の自民党本部のホール。予想通りの決選投票となった。国会議員の投票が終わり、職員たちが壇上で開票作業を行い、約20分後、結果が職員の手元のやや大きめのボードに書き込まれた。もちろん客席からは見えないし、中継していたテレビカメラにも映らないように職

員が後ろ向きに扱っている。

そのボードを、今度は職員の代表が持って、壇上向かって右側にズラリと座っている国会議員らによる今回の総裁選の選挙管理委員会のメンバーたちの前に回り込んで見せた。結果確認だ。

覗き込むメンバーたち。

じつはその中の1人に中谷元元防衛相もいた。すると中谷氏は、ボードを見た直後に、議員たちが座っている一般席に誰かを探すように目を動かし、そして見つけた瞬間本当に

かすかに笑顔を見せたのだった。その様子、よく見ないと誰も気付かないが、テレビ中継画面の片隅にしっかりと映っていた。

私は直感した。「石破茂氏が勝つたのではないか」。

なぜなら中谷氏とは外交や安全保障政策を通じ長く深い盟友だ。あの笑顔は自然に出たもの、一般席に座っている石破氏に送ったものではないか。

その直後に、選挙委員長が得票を読み上げた。決選投票は石破氏215票、高市早苗氏194票。石破氏が勝利したのだった。

決選投票で勝利した石破氏。世論調査など国民的支持は高いのに、永田町の自民党内では、理屈っぽい、1度自民党を離党した、面倒見が悪いなどといったことが理由でなかなか人心掌握ができなかった。国会議員の間の評判が芳しくなかったのだ。石破氏に近い中堅議員は言う。

「世論の人氣が圧倒的にいちばんなのに、総裁選では推薦人集めも苦





石破氏は国会議員の間の評判が芳しくなかった

総裁選の投票が週末に迫った週、月曜日の9月23日には立憲民主党の代表に野田佳彦氏が決まった。ところが、この辺りから、自民党議員たちを個別に取材すると反応が少し変わってきたのだ。

そのころの時点で総裁選は、党員・党友票では石破氏と追いつけていた高市氏、それに次ぐのが小泉進次郎氏。国会議員票では進次郎氏のリードが予想されていたが、いずれにしても3人の決選投票になるのではないかと。そうなると思わせは、「石破氏 vs 高市氏」「石破氏 vs 進次郎氏」「進次郎氏 vs 高市氏」、ただ、マスコミなどの各種調査で「石破氏 vs 高市氏」の可能性が強まっていた。

決選投票は国会議員票の比重が増すが、では2人になった場合に、国会議員票はいつたい何を基準にどちらに流れるのか。

一連の決選投票を予測した新聞やテレビの報道では、当地人たちの比較よりもその裏の人間関係が盛んに取り上げられた。

たとえば…
《石破 vs 進次郎になった場合は、進次郎氏の背後にいる菅義偉元首相

がキングメーカーになつては困るから、同じく影響力を残したい岸田文雄前首相の旧岸田派は石破氏に入れる》

《石破 vs 高市になったら、石破嫌いの麻生太郎副総裁は麻生派に指示して高市氏に入れる》

相も変らぬ派閥単位や好き嫌いへの権力闘争が繰り広げられていた。また、3陣営の当人たちはもちろん推薦人たちも岸田氏や麻生氏に直接頭を下げたり水面下で追い込みの多数派工作をしていた。

ところが、最終週の終盤になり、私が20人以上の衆参の議員に個別に取材をかけて行くと、派閥単位などではなく個々のレベルで変化し始めていたのだ。

まず衆議院議員。
2回生や3回生などまだまだ選挙地盤が強い議員たち…。

「新総裁になったら総選挙が必ずある。考えるのは選挙の顔。特に野田さんが向こう(立憲の代表)になったら果たして論戦できるのかということ。進次郎さんはそもそも厳しい。高市さんは、弁は立つが保守で野田さんも保守しかも穏健保守。2人の



論争になると高市さんはますます先鋭的な保守色が強まって、逆に中間の無党派の保守層は、穏健保守という緩やかな保守の野田さんに流れて行くリスクがある。私たちが今度の選挙でいちばん欲しい無党派の保守層があつちへ行ってしまう。そう考えると論戦ができて、同じような保守の土俵で戦えるのは石破さんかと思うようになった(旧安倍派2回生)

さらに参議院議員はこうだ。
マスコミ各社の調査では、参議院議員は誰に入れるか最後まで無回答の比率が大きかったのだが、個別に聞いてみると参議院なりの事情からこんな答えが返ってきた。

「我々の選挙はじつは1年後。そうすると1年先も何とか踏ん張っていられる政権は誰かということを考える。進次郎氏は危ない。通常国会で答弁も持つかどうか。高市氏は外交で不安がある。首相になっても靖国に行くと言いつつ切っているが、日韓関係も良くなっているのに逆



弁は立つが保守で首相になっても靖国に行くと言い切っている

彼は保守の勉強会の繋がりもあって決選投票では高市氏に投じたのだが…。「進次郎氏の討論などにがっかりした党員が高市氏に流れ出したのが総裁選告示後の中盤ぐらいから。ただ、党員票の投票は野田代表が決まる前から始まっていたからその空気のまま高市氏が伸びた。しかし、議員たちが選挙のことをいろいろより現実的に考え出したのには野田代表が

決まったことも影響したんだろう。決選で議員票が一気に伸びた理由のひとつはそこにあるんじゃないか」

前途は容易ではない!

総選挙に勝利し石破カラーを出せるのか。

苦節5回目の挑戦でつかんだ総裁・首相。しかし、石破氏の今後は、決して順風満帆の道とは言えない。

石破氏に何度も選挙応援に入ってもらったという私の旧知の東北の自民党県連県議。もちろん石破氏を支持してきた。その彼が石破氏の政治家像や、今回の総裁・首相についてこう話した。

「石破さんとの付き合いは何度も何度も来てもらった選挙応援や後援会での講演など。選挙応援について言うなら、私たちは勝てる選挙は石破さんを応援に呼ばない。厳しい選挙の時にこそ人気の石破さんに声をかけて、石破さんは集まったのがたった数十人であっても必ず来てくれた。全国の県連もまったく同じだろう。だからこそ石破さんは、厳しい選挙を通じて自民党への世論の逆風を誰よりも感じ自民党がいま何を

すべきか本当に分かっている。それを東京に戻って口にするから永田町では「後ろから鉄砲を打つ」とか「反党的」などと言われて除け者になってきたが、じつは石破さんがいちはん世論に近い人だ」

ただ、こうした石破氏だからこそこれからが難しいのではないかと話す。

「いままで批判してきたことを総裁・首相になって今度は本当にやり切れるのかということ。たとえば裏金問題の解明とか、党改革とか。トツプになったら党内に気を遣って、もしトーンダウンしてしまつたら、期待が大きいだけに逆に失望も大きくなってしまうと思う。これから石破さんにはそこが試されるのではないか」

首相になって何をやり切るのか。それは経済政策面でもポイントだという。

石破氏は経済については、投票直前に、岸田政権の経済対策を継承することを明らかにした。

戻り。アメリカの大統領もハリスになつたら、靖国参拝は日米韓の連携や米中の関係にも悪影響を与えるから絶対に行くと言ってくる。そんな圧力にどうするのか。行けば波乱、一方屈して行かなかつたら国内の保守が黙っておらず政権は不安定に。そうやって考えると、1年先もまあ何とか低空でもいい、水平飛行を保てる安定感石破氏ではないか」(来年改選、2期目を迎える全

国区議員)

結局議員票の軸の1つはやはり選挙だったのだ。そして衆議院、参議院双方それぞれの選挙事情から、石破氏の名前が最終盤になって上がり始めたのだった。私が派閥に関係なくランダムに聞いた20数人のうち18人が、消極的ながらという意見も含めて「石破氏」と答えたのだった。

自民党の閣僚経験のあるベテラン議員はこう話した。

決まったことにも影響したんだろう。決選で議員票が一気に伸びた理由のひとつはそこにあるんじゃないか」

前途は容易ではない!

総選挙に勝利し石破カラーを出せるのか。

苦節5回目の挑戦でつかんだ総裁・首相。しかし、石破氏の今後は、決して順風満帆の道とは言えない。

石破氏に何度も選挙応援に入ってもらったという私の旧知の東北の自民党県連県議。もちろん石破氏を支持してきた。その彼が石破氏の政治家像や、今回の総裁・首相についてこう話した。

「石破さんとの付き合いは何度も何度も来てもらった選挙応援や後援会での講演など。選挙応援について言うなら、私たちは勝てる選挙は石破さんを応援に呼ばない。厳しい選挙の時にこそ人気の石破さんに声をかけて、石破さんは集まったのがたった数十人であっても必ず来てくれた。全国の県連もまったく同じだろう。だからこそ石破さんは、厳しい選挙を通じて自民党への世論の逆風を誰よりも感じ自民党がいま何を





まずは岸田政権3年間の経済政策の総括が必要

うのだったら良くない。しかも、岸田政権は財務省が操ってきた。石破氏が継承するというなら、次も官僚主導になってしまうと見られるのはマイナスだ」

一方、岸田氏。今回石破氏と政策継承を約束し旧岸田派が決選投票は石破氏にまともって票を入れ勝利に導いたと囁かれています。

これによって今回の総裁選が、背後では党内のキングメーカーの立場や存在感を大きく変え、これに石破氏が左右されないかを心配する声も上がっている。

これについて決選投票で石破氏に投票したベテラン議員でさえこう言う。

「この継承は、決選投票で旧岸田派の支持を得る条件として、岸田路線を引き継ぐことを約束したのではないかと高市氏の支持議員などは言っている。そもそも岸田政権が掲げた好循環経済はまだまだ半ばだし、看板の投資もNISAなどは迷走している。まずは岸田政権3年間の経済政策の総括が必要ではないのか。その上で石破流の経済対策を打つべきで、票のためにただ継承とい

選投票にも行けなかったが、こちらは小石河（小泉進次郎・石破茂・河野太郎）がつかがっていることから影響力は残すだろう。いずれにしても、新たなキングメーカーの構図になるが、石破氏が岸田氏やその背後の財務省に支配されるようなことがあってはまずい」

岸田政権3年間の

総括なくして

次へは行けないはず

そもそも岸田氏がキングメーカーたる地位に就く前に、岸田政権の3年間の総括はどこへ行ったのか。

総括なくして次の政権はない。自民党の出直しもないはずだ。私は岸田政権の問題点を4つ挙げ

る。まずは「国会軽視」。それは安倍晋三元首相の国葬から始まった。岸田首相は銃撃事件からわずか6日目に早々に国葬を決めた。

「参院選が終わって岸田首相は主流3派の麻生副総裁、茂木敏充幹事長と会いその翌日国葬を表明した。この間、安倍氏に近い保守系議員ら

から国葬の働きかけが相当あった上に、当時内閣支持率6割のうちの3割は保守層だった、岸田首相にしてみればそこへの気遣いがあった。しかし、事件発生から時間が経つにつれて国民は冷静になり、背景の旧統一教会問題なども出てきた」（岸田派ベテラン）

国葬は内閣設置法の解釈で内閣が決められるのだが、政治史にも残る事件だ。三権分立の国会の場で、国民から選ばれた各党が安倍政権を総括し、事件を総括し、内閣はそれを真摯に聞いた上で国葬を決定するか否かを決めるのは当然だが、岸田首相はそうした手続きを踏まなかった。

その後も岸田首相の国会軽視はまたある。防衛費の増額、日米2プラス2での防衛協力体制の確認、原発の再稼働や新設。安全保障もエネルギー政策の転換も国会で十分議論していないのだ。

2つ目は「場当たりの」な政策や法律だ。





岸田政権3年間の総括なくして次へは行けない

たとえば旧統一教会に関する対応。裁判所への解散命令請求の要件を巡っては当初は「民法の不法行為は入らない」とはっきりと答弁していたにもかかわらずその後世論が厳しくなると「入りうる」と答弁を変えた。

LGBTに関してもそうだ。岸田首相は同性婚に対して「慎重に検討すべき。社会が変わってしまう」な

どと言いつつたにもかかわらず、側近の1人がLGBTで差別発言をして猛批判されると態度を一変。理解増進法なるものを与党に指示して作らせたが、これがまた単なる理念法。たとえば同性婚を認める民法改正など具体性・現実性に欠けている。要は場当たりだから中身が極薄なのだ。

3つ目は「官僚主導政治」の復活。

中身は別として

も、それまで安倍政権や菅政権は「政治主導」だった。しかし、岸田政権は財務省や外務省、経産省などの霞が関の掌に乗って多くの政策が進められてきた。

財務省で挙げれば、防衛費など各種の税や国民負担増。外務省はアメリカ追従路線の強化。経産省は原発の再稼働や新設。

そして4つ目は「命」を軽んじてき

たこと。

優生思想に基づいて障害者などに強制的に不妊治療などを強いた旧優生保護法の裁判では、昨年高裁で原告勝訴の判決が出たにもかかわらず上告し救済や謝罪を長引かせた。子供を産めないようにする強制は、岸田首相が盛んに訴える少子化対策などとは真逆だ。かつてハンセン病の裁判で小泉純一郎元首相が「人権侵害」と認め裁判を終わらせたような決断をしなかった。水俣病認定訴訟もそうだ。原告勝訴の判決に対して上訴した。広島サミット以降何度も口にする「核なき世界」もそうだ。核兵器禁止条約に批准することもオプザバー参加すらない。

ただ成果と言えば、外交で日韓関係の長い対立に雪解けをもたらしたのは評価すべき点だと思う。

いずれにしても石破氏は、こうした総括をきちんとした上で、石破氏らしい政策、そして信条の世論や国民との対話や国会の議論を第一にした政権運営をして欲しい。

総裁選翌日の夜、私は時事芸人のプチ鹿島市の総裁選トークライブに出演したが、その場で石破氏に直接

電話をした。会場のみなさんと石破氏は話をしてくれた。そこで石破氏は「地位協定の見直しなど（公言したことは）やる」と約束して会場を沸かせた。

また、私は自分のライフワークでもあるが防災に全力を挙げて欲しい。

前出の決選投票で石破氏に投票したベテラン議員は、石破新政権にこう注文を付けた。

「世論は自民党に対しても堂々と言ってきたことを支持してきたのだから、それをやらなければ失望は逆にもっと大きくなって跳ね返ってくる。総選挙でも、裏金問題などの野党の追及にうやむやに答えると大きなマイナス。党内では議員投票の半数は高市氏に行っているわけで反主流派の動きも出てくる。そうした党内の新たな権力闘争に対しても気を遣ったり巻き込まれたりすることがないように、そこに一線を引けるかどうか、これから石破氏は試される」

(了)

